

平成 16 年 3 月期 第 3 四半期業績の概況 (連結)

平成 16 年 2 月 13 日

上場会社名 株式会社 シンワ (コード番号: 2654 大証第二部)
 (URL http://www.shinwa-c.com/)
 問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役 若本 淳二 (TEL:(06) 6683-3101)
 責任者役職・氏名 取締役管理本部長 山口 昇

- 1 四半期業績の概況の作成等に係る事項
 売上高 (又はこれに相当する事項) の会計処理 : 無
 の方法の最近連結会計年度における認識の方法との相違の有無

2 平成 16 年 3 月期第 3 四半期業績の概況 (平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 15 年 12 月 31 日)

(1) 売上高 (単位: 百万円未満切捨)

	平成 16 年 3 月期第 3 四半期 (当第 3 四半期)	対前年同 四半期増減率	平成 16 年 3 月期第 3 四半期 (前年同四半期)	参考 前期 (通期)
売上高	百万円 18,670	% -	百万円 -	百万円 24,067

- (注) 1. 売上高は、当該四半期までの累計値であります。
 2. 四半期決算の開示は、平成 16 年 3 月期第 1 四半期より実施しておりますので、前年同四半期実績及び増減率につきましては記載しておりません。

(2) 販売実績

当第 3 四半期の販売実績をセグメント別に示すと、次のとおりであります。(単位: 百万円未満切捨)

事業の種類別セグメント の名称	平成 16 年 3 月期第 3 四半期 (当第 3 四半期)		参考 前期 (通期)	
	売上高	構成比	売上高	構成比
	百万円	%	百万円	%
卸売事業	17,015	91.1	21,547	89.5
外食事業	1,655	8.9	2,519	10.5
合計	18,670	100.0	24,067	100.0

- (注) 1. セグメント間の取引については、相殺消去しております。
 2. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

[売上高に関する補足説明]

当第 3 四半期 (平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 15 年 12 月 31 日) においては、長引くデフレの影響による個人消費の低迷及び完全失業率の高水準での推移が依然として続いております。しかしながら、一部の企業収益に改善がみられ株価も回復基調にあることから、景気に明るい兆しが見え始めてまいりました。

当社グループの属する食肉卸売業界及び外食業界とも、デフレによる個人消費の低迷、平成 15 年 8 月に冷蔵牛肉のセーフガード (緊急輸入制限措置) が発動される等、なお一層厳しい環境下にあります。

このような状況の中、当社グループは、「ヴィクトリーロード 55」をスローガンに掲げ、「高収益体質への変革」をテーマとして経営の改善を図るべく、期初より積極的に取り組んでまいりました。

卸売事業においては、相場環境の好転及び在庫削減に取り組んだことにより、売上高は大幅に増加いたしました。

外食事業においては、期中に焼肉店「あふさか牛太郎」を 1 店舗出店したものの、外食本部における売上計上基準の変更により、売上高は減少いたしました。

(参考) 四半期連結経営成績等の概況 (平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 15 年 12 月 31 日) (単位: 百万円未満切捨)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成 16 年 3 月期 第 3 四半期	百万円 18,670	百万円 373	百万円 253	百万円 251
平成 15 年 3 月期	24,067	194	57	37

(参考) 四半期個別経営成績等の概況(平成15年4月1日～平成15年12月31日)(単位:百万円未満切捨)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成16年3月期 第3四半期	百万円 18,496	百万円 335	百万円 250	百万円 219
前期(通期)	23,752	150	47	30

(3) 当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象
該当事項はありません。

(注) 当該四半期に係る数値について、公認会計士又は監査法人の監査を受けておりません。

3 平成16年3月期の連結業績予想(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

(単位:百万円未満切捨)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期	23,350	200	200	37 26

[業績予想に関する定性的情報等]

当期業績予想につきましては、平成15年12月に米国ワシントン州でBSE(牛海綿状脳症)が発生したことにより、米国産牛肉が輸入停止となりました。その影響により、平成15年11月14日に発表いたしました予想より、売上高、経常利益及び当期純利益とも下回る予想であります。

今回のBSEの発生は、前回(平成13年9月に国内で発生)と比較して一般消費者の反応は冷静ではありますが、外食産業中心に消費動向には大きな影響を与える要因となっており、米国産牛肉は当社の主力商材の一つである為、直近の第4四半期への影響は避けられない状況となりました。

当社は、BSE発生後いち早く対策会議を開催し、米国からの輸入禁止長期化を視野に入れて「豪州産牛肉」「国産牛肉」「豚肉」及び「加工品」等の商品群の仕入・販売の強化を徹底するとともに、来期から新たな食肉供給国からの商品開発・輸入開始の準備にも入っております。又、当社外食事業の「あふさか牛太郎」に関しては、4月1日からの消費税等の総額表示導入も含め、3月中旬にはグランドメニューの大幅変更を予定しております。

今後の業績見通しにつきましては非常に流動的であり、業績予想を見直す必要が生じた場合には、適時に見直し数値を開示する予定であります。

(注) 上記の業績予想は発表日現在における将来の見通し、計画の前提となる予測が含まれております。実際の業績は、今後の様々な不確定要因によって記載の数値と異なる可能性があります。

以 上